

肝炎ウイルス検査受検率向上のための行動経済学的研究

研究分担者：平井 啓

大阪大学大学院 人間科学研究科

研究要旨：本研究は、肝炎ウイルス検査の受検率を向上させる目的で、過去の対策成果を基に行動経済学的アプローチを再評価した。2014年から2022年にかけての資料分析により、ナッジの展開、ターゲット集団の特定、意識向上キャンペーンの実施、職種に応じた検査促進、非専門医への情報提供、受診状況の詳細な把握、地域特有の戦略の展開といった行動経済学的要因が受検率向上に効果的であることを特定した。また、HCV排除カードの配布が受検率向上に有効であることが確認され、その背後にはエンドウメント効果と損失回避の意識が関与していることが明らかになった。この知見に基づき、肝炎医療コーディネーターや行政・病院担当者向けの研修プログラムの策定が提案された。

A. 研究目的

肝炎ウイルス検査の受検率向上に資する新規戦略の策定を目的として、過去の対策成果に基づく行動経済学的アプローチの再評価を行った。

B. 研究方法

2014年～2022年までの肝炎ウイルス検査に関する政策研究成果に関する資料（班会議資料）を用いて、これまでの取り組みについてその内容分析を行い、肝炎ウイルス検査受検率を向上させる行動経済学的要因を抽出した。また、研究班において有効性が明らかになっているHCV排除カードの配布についてその行動経済学的インパクトとなる要因を抽出した。

C. 研究結果

肝炎ウイルス検査受検率を向上させる行動経済学的要因

肝炎ウイルス検査受検率を向上させる行動経済学的要因として7つの要因を抽出した。

- ① **ナッジの展開：** 部署によるナッジの導入は、検査受検数の増加に寄与している。
- ② **対象年齢層の特定：** 50歳から60歳の間で、ナッジを活用した受検促進が有効性を示している。
- ③ **意識向上キャンペーン：** 「肝炎検査＝肝がん検診」との連携による啓発活動が検査率向上に貢献。

- ④ **職種特有の検査促進：** 陽性率が高い職種における検査導入が効果を奏している。
- ⑤ **非専門医への情報提供：** 眼科医会との協力による情報展開が非専門医における認識向上に繋がった。
- ⑥ **受診状況の把握：** 郵送や電話による受診調査を強化し、受診状況の把握率を90%に向上した。
- ⑦ **地域特有の戦略：** 肝がん死亡数が多い地域でのナッジを用いた初回精密検査の促進が功を奏した。

HCV排除カードの配布の行動経済学的インパクト

研究班で行われたHCV排除カードの配布が受検率向上に有効であることが確認された。配布されたカードの「所有」に対する価値付けと、それに伴う損失回避の意識が、エンドウメント効果を引き起こす要因として特定された。これは、カードを受け取った個人が、その「所有」を維持したいという動機付けを感じることであり、継続的な健康行動を促進する可能性がある。また、この理解は検査結果の通知を含む、その他の健康行動へのインセンティブ設計にも応用可能である。

D. 考察

これらの結果に基づいて、肝炎ウイルス検査の受診率対策を肝炎医療コーディネーターや行政・病院担当者を対象とした研修プログ

ラムの戦略を策定した。

1. **ナッジの実践的適用:** 研修プログラムは、肝炎医療コーディネーター及び行政・病院担当者が実践的なナッジの概念と応用方法を理解し、実際の状況に応じて検査促進のための微細な心理的手がかりを展開できるようにすることを目標とする。ナッジの成功事例を通じて、検査受検を促す環境設計の重要性を学ぶ。
2. **効果的なターゲティング:** 受講者は、検査受検率を高めるために年齢層や職種などの特定のターゲット集団に焦点を当てた戦略の立案と実行ができるように研修される。行動経済学的視点から、特定の集団にアプローチする際のターゲティングの精度を高める。
3. **行動変容を促すフレームワークの構築:** 肝炎ウイルス検査に対する公衆の認識を高め、行動変容を促すためのキャンペーン企画に必要なスキルを研修する。これには、効果的なメッセージングとフレーミング技術の習得が含まれる。
4. **データに基づく意思決定の強化:** 研修プログラムでは、検査受検率に影響を与える要因を識別し、それらを根拠とした戦略的意思決定を行うためのデータ分析技術にも焦点を当てる。

本研究結果を踏まえた研修プログラムの開発と実施は、肝炎ウイルス検査の受検率向上を目指す医療従事者および行政担当者にとって、行動変容の促進に対する理解と能力を深める機会を提供する。来年度は、これらの戦略に基づいた研修プログラムのコンテンツを作成する。

E. 結論

本報告書における研究は、肝炎ウイルス検査の受検率向上を目的とした行動経済学的戦略の実証的検証を行い、受検率向上に寄与する複数の要因を明確にした。ナッジの展開、ターゲット集団の特定、意識向上キャンペーン、特定の

職種への対策強化、非専門医への情報提供、受診状況の詳細な把握、および地域特有の戦略展開といった具体的な要因が、肝炎ウイルス検査の受検率を高めるために有効であることが判明した。特に、HCV排除カードの配布はエンドウメント効果と損失回避を引き起こし、持続的な健康行動へと繋がることが示された。

これらの成果に基づき策定された研修プログラムは、肝炎医療コーディネーターや行政・病院担当者に対して、肝炎ウイルス検査の受検促進における行動経済学的アプローチの適用を可能にするものであり、今後の開発が期待される。

F. 政策提言および実務活動

なし

G. 研究発表

1. 発表論文

1. Hirai, K., et al. (2023). Impact of Cognitive Function-Focused Mental Health Promotion Campaign for Psychiatric Help-Seeking Behavior in Japanese University Students. *Int J Ment Health Psychiatry*, 9(2).
2. 平井 啓・山村麻予・鈴木那納実・小川朝生. (2023). 医療従事者に対する意思決定支援研修プログラムの効果検証. *Palliative Care Research*, 18(3), 183-191.

2. 学会発表

1. 平井 啓・田辺和奏・岡浩一朗・佐藤洋子・中谷英仁・佐々木敏・水野篤・山本精一郎：生活習慣改善に対する「無関心層」に関する新たなセグメンテーションアルゴリズムの開発. 第30回日本行動医学会学術総会, 2023. 12. 2 文京区
2. 平井 啓・足立浩祥・山村麻予・中村菜々子・谷向仁・藤野遼平・工藤高：認知機能に焦点を当てたメンタルヘルス促進キャンペーンが大学生の精神科医療への援助要請行動に及ぼす影響. 日本健康心理学会第36回大会, 2023. 12. 2 横浜

3. 大津真弓・白浜若菜・高橋みどり・金子
菜央・平井 啓・小川朝生・立石清一
郎・高橋 都・桜井なおみ：両立支援を
必要としているがん患者に必要となる
「社内ピアサポーター養成事業」．第 96
回日本産業衛生学会，2023. 05. 11
宇都宮

3. その他

啓発資材

なし

啓発活動

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし